

26年7月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
入荷動向	国産材製材品	25.0	12.5	37.5
	外材製材品	18.8	6.3	18.8
	その他	8.3	8.3	16.7
販売動向	国産材製材品	△ 42.9	△ 35.7	△ 12.5
	外材製材品	△ 25.0	△ 31.3	△ 6.3
	その他	△ 25.0	△ 33.3	△ 8.3
在庫動向	国産材製材品	37.5	50.0	37.5
	外材製材品	37.5	31.3	25.0
	その他	16.7	16.7	0.0

国産材製材品及び外材製材品の入荷は共に増加傾向で推移。

国産材製材品及び外材製材品の販売は共に減少傾向で推移するが、9月にはマイナス幅縮小。

国産材製材品及び外材製材品の在庫は増加傾向で推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 18.8	△ 12.5	0.0
	柱角 KD12×3	△ 18.8	△ 12.5	0.0
	通し柱 12×6	△ 7.1	0.0	0.0
	桁角	△ 31.3	△ 6.3	0.0
	母屋角	△ 18.8	△ 6.3	0.0
	タルキ	△ 18.8	△ 12.5	0.0
	間柱	△ 12.5	0.0	6.3
	加工板	△ 7.1	0.0	7.1
	ヌキ	△ 12.5	△ 12.5	12.5
	平割	△ 12.5	△ 6.3	6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 56.3	△ 31.3	△ 12.5
	柱角 KD12×3	△ 56.3	△ 31.3	△ 12.5
	土台角 10.5×4	△ 50.0	△ 37.5	△ 12.5
	土台角 12×4	△ 50.0	△ 31.3	△ 12.5
	通し柱 12×6	△ 21.4	△ 14.3	0.0
カラムツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	△ 25.0	△ 6.3	△ 6.3	
米マツ割物	△ 28.6	△ 14.3	△ 14.3	
北洋エゾマツタルキ	△ 33.3	0.0	16.7	
北洋アカマツタルキ	△ 41.7	△ 16.7	△ 8.3	

スギ製材品は柱角、通し柱、桁、母屋及びタルキは7月の弱持合ないしやや弱保合が9月には保合に、加工板、ヌキ及び平割は7月のやや弱保合が9月にはやや強保合に。

ヒノキ製材品は通し柱をのぞき総じて弱含みないし弱保合で推移するが9月に向けてマイナス幅縮小、通し柱は7月の弱持合が9月に向けて保合に。

米マツ製材品は弱保合ないしやや弱保合で推移。

北洋エゾマツタルキは7月の弱保合が8月の保合を経て9月には強保合に、同アカマツタルキは弱含みないし弱保合で推移するが9月に向けてマイナス幅縮小。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・素材減により入荷量は増えず。売りづらいため在庫は減らず。構造材の販売は引き続き不振。役物関係は入荷あれば売れる。今後、販売進めば品薄局面もあるか。スギ製材品価格は引き続き横ばい、素材減もあって保合と予想、ヒノキは中小工務店の受注が7月をピークに不調の声多く、販売不振、盆明け以降回復期待も、相場戻しは難しいか。
 - ・ヒノキ、スギの構造材の入荷は安定している、外材製品は入荷増加傾向。国産材製品は安定販売だがやや減少傾向、外材ではWW羽柄材は安値の中、増加傾向。在庫は全体的にやや増加。
 - ・スギ及びヒノキとも入荷は概ね順調、外材も入荷支障なし。販売は地場中小販売店の荷動き悪い。
 - ・スギ羽柄材、小割は増加、アカマツタルキ増加も、3m現物なし。ビルダー以外は当用買が多くなってきている。WW間柱、アカマツタルキに安い単価が出てきた。国産材、外材とも在庫に動きが少ない。
 - ・販売不振のため在庫が増えないよう入荷調整、6月同様プレカット工場、リフォーム業者からの注文が少ない。
 - ・例年9月入荷量は増加。当月、翌月の入荷動向は横ばいと予想。販売動向は悪い、9月以降の秋需に期待したいところ。7月以前に売った製品在庫が減っていかないため、倉庫に眠った状態。スギ柱角、桁は7,8月下落基調、9月以降上昇か、母屋、タルキ間柱、加工板も9月以降上昇と予想。ヒノキ製材品は下落基調。米マツも下落基調、タルキは高値圏内。
 - ・入荷量は際どい増加はないが 販声量激減により在庫増
- (製品価格)
- ・スギ (KD) 材の販売価格は弱含みながら安定、スギ (GRN) 材は下落傾向の中、原木不足もあり横ばいとなりつつある。スギ羽柄材はやや下落傾向、KD材は比較的価格安定している。ヒノキ (KD) 材は下落の中、安定してきている。ヒノキ (GRN) 材は価格下落の中、今後量的にも多くないことから横ばいへ。米マツ平角は、最大手の値下げにより、下落。割物も輸入量増加で下落。北洋材は輸入材の冬期伐採の原木製品が今後少なくなることから一時的に良好。
 - ・スギ製材品は原木市況と連動して柱材はやや高、羽柄材は低で推移、ヒノキ製材品は、全体に相場の維持が難しい状態。北洋アカマツタルキは荷動き不調で相場安。
 - ・スギKD10.5柱角 60,000円/m³、同12柱角60,000円/m³、スギ桁40,000円/m³、同母屋G42,000円/m³、同タルキG45,000円/m³、同KD間柱 66,000円/m³、同加工板G2,800円/束、同KD3,800円/束、同ヌキ岩手40,000円/m³、同平割プレーナー48,000円/m³、同ラフ40,000円/m³、ヒノキKD10.5×3m90,000円/m³ (アッセンブル) 、同12×3m 90,000円/m³ 、同10.5×4m土台90,000円/m³、同12×4m土台90,000円/m³、米マツ平角68,000円/m³、同割物 AD65,000円/m³北洋アカマツタルキS64,000円/m³、同P55,000円/m³。
 - ・スギ材利用の合板、バイオマス発電の影響で原木の値上がり少ない。ヒノキは梅雨時期に原木が虫害を受ける前に製品化して早めに安値で販売している。